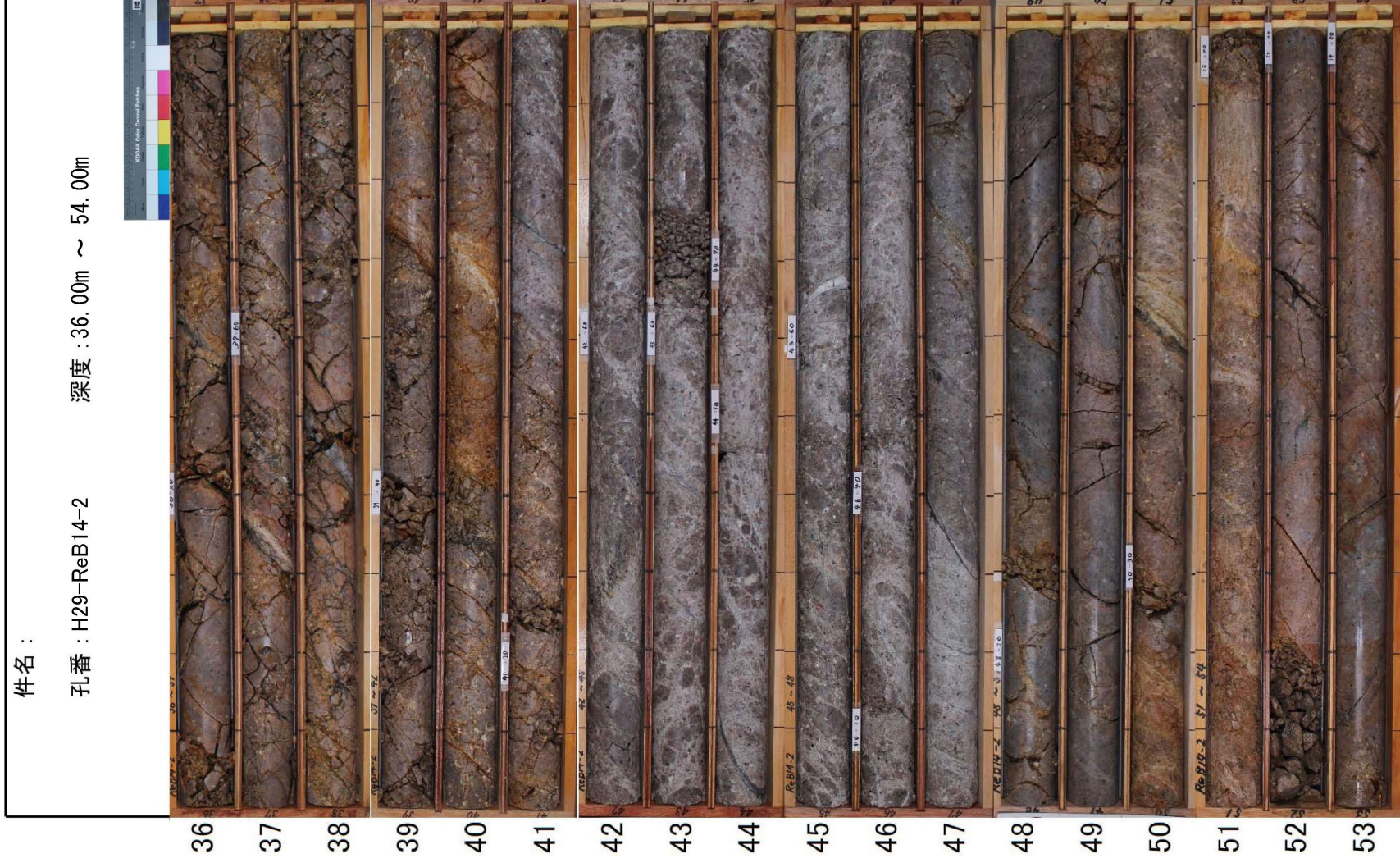


第7.4.4.235図 (6) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H29-ReB14-2孔)

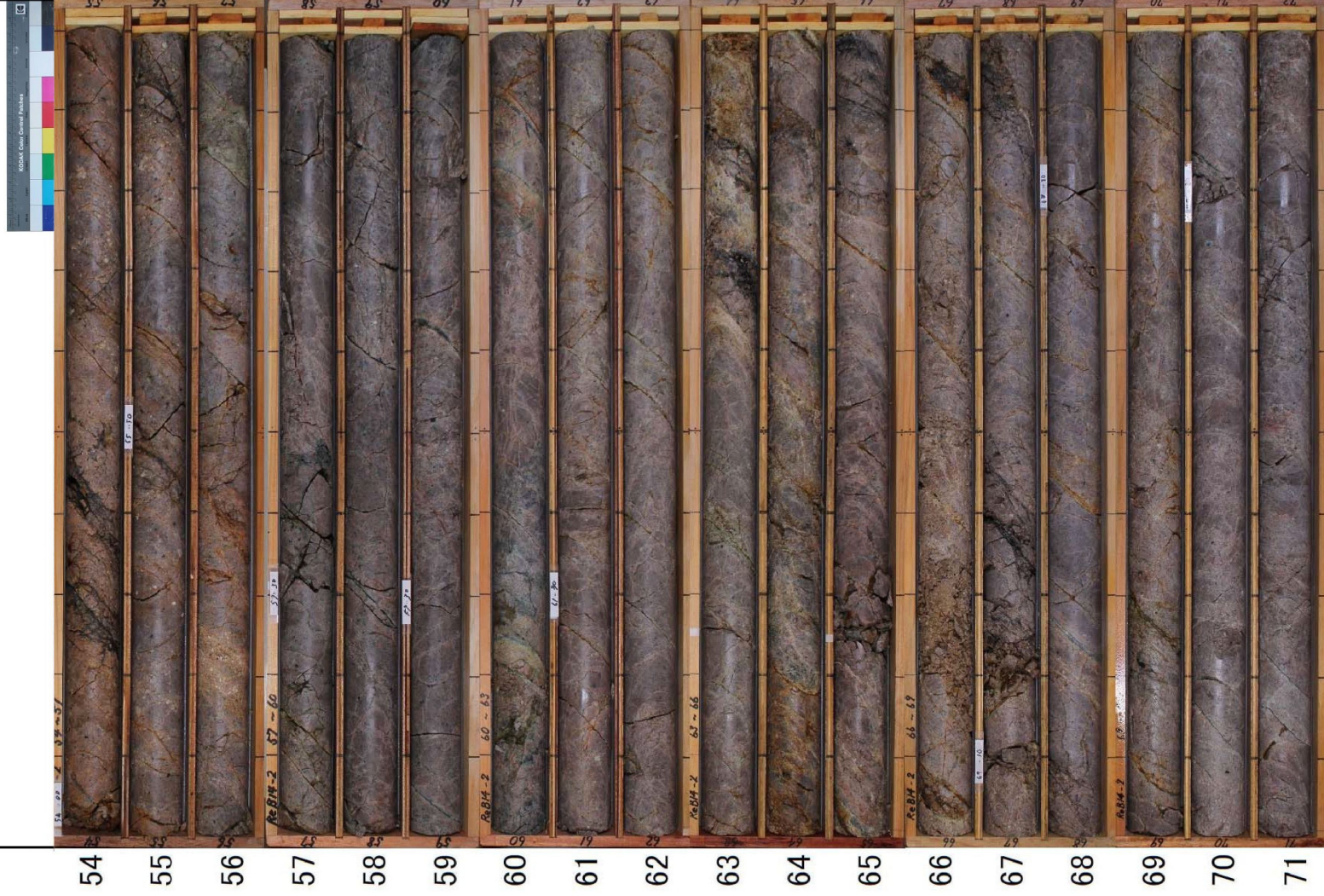


第7.4.4.235図 (7) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H29-ReB14-2孔)

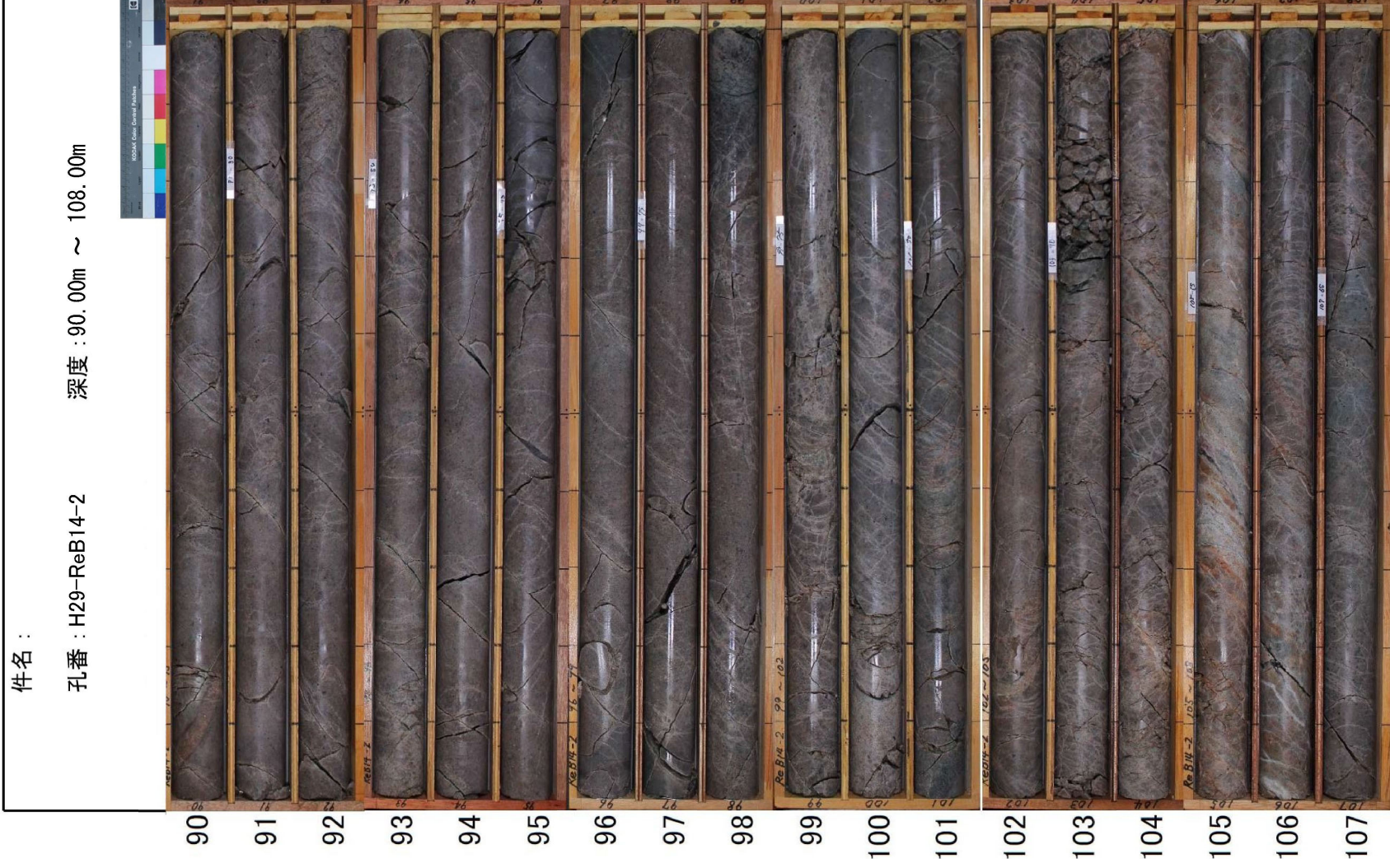
件名 :

孔番 : H29-ReB14-2

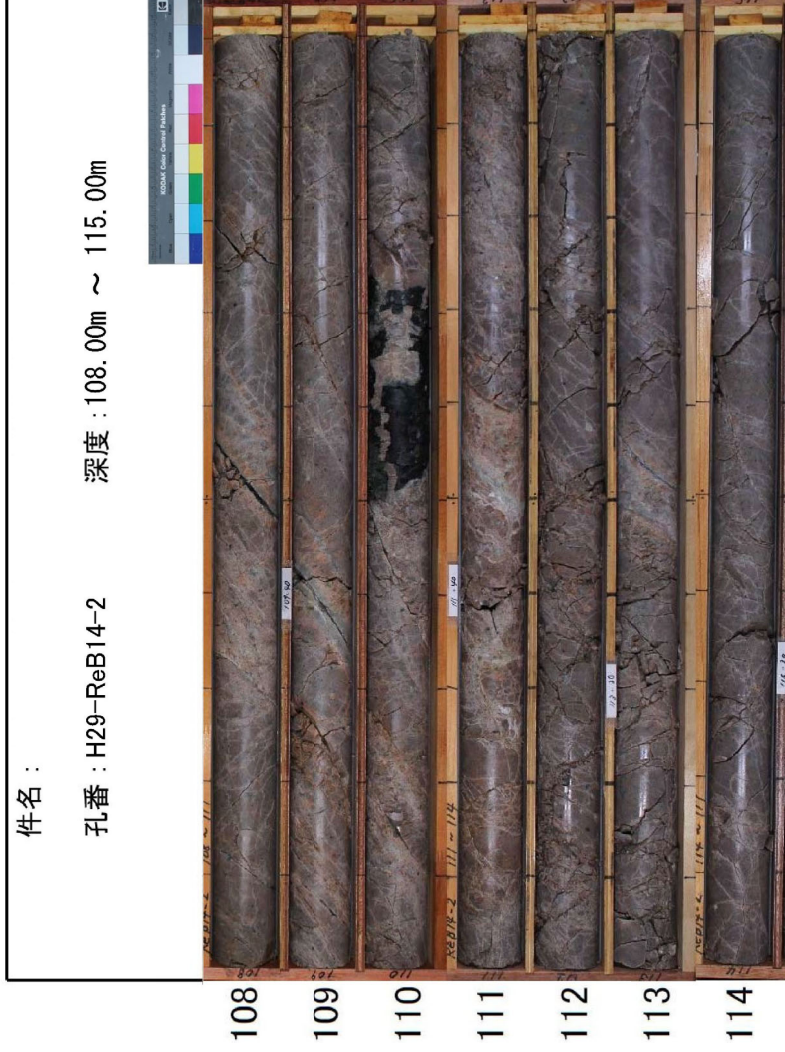
深度 : 54.00m ~ 72.00m



第7.4.4.235図 (8) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H29-ReB14-2孔)



第7.4.4.235図 (10) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H29-ReB14-2孔)



第7.4.4.235図 (11) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H29-ReB14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟		割れ目の形状		風化	記	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	試験 (標準貫入)		原位置試験 (孔内水位)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (m/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (N MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
					Dg	Cg	Dg	Cg			δ	γ			0	10												20	30	40	50						
6			花崗閃緑岩	灰白	Dg	Vz	Dg	Vz	2	5.05~5.72m: 風化の程度が軽く、岩体コアが生成し、割れ目が10~80cm間隔で発達し、白色結晶をフィロム状に挟む。 5.43~5.72m: コアは黄褐色を帯び、砂質で、径2~8cm程度の岩片状を呈する。 5.72~5.87m: 風化により軟質化し、砂凝状を呈する。 5.87~6.51m: 風化の程度はやや強い。傾斜30~45°の割れ目の他、断面全体が割れ目が発達し、岩片状コアを呈する。 6.00~6.51m: 割れ目面はマンガン鉱染で暗~黒色に染色する。 6.35~6.37m: 傾斜30°の割れ目沿いがマサ状を呈する。 6.61~6.62m: 指で砕ける程度にマサ状を呈する。 6.62~6.67m: 上段より硬く、爪で穿うして割れる程度である。 6.67~6.70m: 硬軟コアとなる。 6.70~7.31m: 傾斜10~45°の割れ目面が10cm間隔で発達し、岩片状コアを呈する。 6.61m: 傾斜30°の割れ目沿いがマサ状を呈する。 7.08~7.11m: 傾斜約20°の割れ目沿いが幅3cm程度でマサ化する。 7.31~7.46m: 1cm以下の間隔で傾斜10~20°の割れ目が深差し、指で砕ける程度の硬さとなる。 7.49~8.25m: 割れ目が割れ目が発達し、指で砕ける程度にまで軟質化する。 7.71~7.72m: マンガン結晶が見られ、白色の粘土も局所的に含む。 9.25~9.72m: コア体呈し、所々やや硬い部分が確認される。 8.40~8.41mに幅10cm、5.47~6.51mに幅10cmのほぼ水平な灰色の砂質粘土を挟む。粘土の上下部は凝りつ。 9.78~9.80m: 指圧で穿るに際して砕ける程度の硬さで、割れ目に黒色結晶が充填する。 9.30~9.64mに4本の傾斜30~40°の同系統の割れ目が分布する。割れ目面にはマンガン鉱染が見られる。 9.38~9.64m: 上段より硬くなり、割れ目はやや少なくなるが、割れ目面は暗色に着色している。 9.64~11.47m: 傾斜30~45°と60°の割れ目が交差する。ほとんどの割れ目にマンガン結晶が充填される。	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100
7			花崗閃緑岩		Dg	Vz	Dg	Vz	3		0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100									
8			花崗閃緑岩	暗褐色	Dg	Vz	Dg	Vz	2		0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100									
9			花崗閃緑岩		Dg	Vz	Dg	Vz	2		0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100	0	50	100									

第7.4.4.236図 (2) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1L)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験 (図)	原位置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
11				明礬灰			γ			10.00~10.04m付近は割れ目に割れ目が分布し、一部マサ化する。 10.21~10.23m: 割れ目沿いがマサ状~膠状となる。変質を受け、コアは軟質である。 10.82m付近の傾斜30°の割れ目沿いが傾斜5mm程度でマサ状を呈する。 10.87~11.00m: コアはやや硬い。	8 10												7/08											
12				本層硬岩			δ			11.42m付近の傾斜15°の割れ目に幅5mmの褐色系産物を伴う。 11.47~13.30m: 傾斜45°と80°の割れ目の他、複雑な割れ目もみまみする。全体に硬質し、割れ目が不明瞭になる。 11.47mの傾斜25°、11.52mの傾斜7°の割れ目に幅1~4mmの褐色粘土を挟む。 11.87m、11.90m: 傾斜40°の割れ目にマンガン産物が現れる。 12.08~12.10m: 土砂状を呈する。	7 30																							
13				凝結			γ			12.70m付近は塊状コアを呈する。コアは指で割れない。 13.04~13.06m: 土砂状を呈する。 13.16m: 傾斜30°の割れ目に褐色の砂りじりシルトを挟む。 13.38~14.73m: 傾斜30°と80°の割れ目が交差し、部分的に岩片状コアとなる。ハンマーの打撃で鋭い音響を発生する。 13.38m: 傾斜40°の割れ目に幅1.5mm程度の黄褐色シルトを挟む。 13.38~13.54m: コアの表面は鋭く軟質である。 13.94~13.96m: 岩片状を呈する。	1 100																							
14							γ			14.24~14.27m: 上部77°下傾15°で幅50mmの砂りじり産物シルト状を呈する。軟質で指が貫入する。 14.33~14.55m: 割れ目是一部黒色化し、複雑な割れ目が分布する。 14.55~15.71m: コアの硬軟を繰り返す。硬質部は割れ目が少なく、コア表面も滑らかである。 14.64m: 傾斜75°の割れ目に幅0~20mmの灰色の砂を挟む。	5 10																							

第7.4.4.236図 (3) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D [%] → cm	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	() 値 () N () 標準貫入 () 試験 () 図	原位試験 (孔水基準)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (m/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチャリノヒット ケルコチニノタヤモトヒト	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
21				暗褐色	Dg	V/E	δ	3		20.18m: 傾斜10°で幅2mmの軟質心持ち色土を採取。割れ目は幅10mm以下で、割れ目径10mmが有り。コアは灰色を呈する。 20.36~20.40m: コアはやや硬く、割れ目は褐色化するが、密着する。 20.65~20.70m: 傾斜10°と65°の3名の割れ目に幅1~4mmの灰色粘土を挟む。 21.00~21.83m: コアはやや硬いが、傾斜10~30°の割れ目が発達し、一断面程度の割れ目と交差して割片状を呈する。 21.63~21.65m: 傾斜10°の割れ目沿いにマサ化する。割れ目は黒~黒色化する。 ●21.63~22.57m: 破砕部 21.63~22.57m: 岩片状部(出) 上部で逆打。下部で直挿 22.19~22.22m: 傾斜10°の軟弱な砂が観察される。コアは粒状をなし、ハンマーの打撃で金属音がする。破砕部中の中石である。 22.26~22.41m: 傾斜60°と20°の割れ目は割片状コアからなる。7.4mmの傾斜10°の割れ目に褐色のマサ化を呈する。 22.26~22.60m: 0.5mの間隔で傾斜10°の割れ目が発達し、全体に風化が強い。 22.41m以下は傾斜20°程度程度の割れ目が密着し、マンガン20.85mmの割れ目はやや硬くなるが、割れ目が多く、マサ状の砂を採取するものが多い。	90	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
22				暗褐色	Dg	V/E	γ	2		23.61~23.89m: 割れ目は褐色化するが、密着する。 24.10~24.70m: 傾斜20~70°の割れ目及び傾斜割れ目が発達し、割れ目に褐色粘土を挟む。 24.11m: 傾斜15°の割れ目沿いはマサ化している。 24.18m付近: 割れ目に傾斜35°、幅5~15mmのシルトを挟む。 24.20~24.27m: 傾斜20°の割れ目に幅2mmの褐色粘土を挟む。 24.70~25.00m: 傾斜20°の割れ目が発達し、面は褐色化、傾斜80°程度の割れ目が発達。 24.80m: 傾斜35°の割れ目沿いが褐色土を呈する。	100	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
23				暗褐色	Dg	V/E	γ	2			23																				
24				暗褐色	Dg	V/E	γ	2			24																				

第7.4.4.236図 (5) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1L)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	柱状区分	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風変	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	ROD [%]	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値)	試験 (N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)				
36						Dg	IVe	δ 3	35.30m付近、傾斜5°の割れ目沿い幅約10cmでマサ化する。 35.50m付近、割れ目沿い幅約7cmでマサ化する。傾斜約30°の割れ目が卓越し、割れ目の面は黒〜褐色化。 35.75~36.14m: コアは岩片状を主とする。岩片自体は比較的硬質であるが、上下位に比べて割れ目が密集する。 36.14~36.2m: 疎離しり砂状を呈する。傾斜50°、長さE下層下層と深く埋れ目状を呈する。36.21~37.70m: 一部岩層は硬質だが大半は硬さなりを呈す。割れ目は傾斜20°~30°の低角度のものが優勢であり、割れ目は酸化汚染を帯び褐色を呈し、褐色化する(幅約2mm)。岩芯は強く褐色に汚染される。コアの表面はマンガン汚染を呈す。	5 10 15 16 16 15 5 10	0 50 100	0 50 100	0 50 100	0 10 20 30 40 50																
37				各種炭素		Dg	IVe	γ	37.6m: 傾斜50°で幅~2mmの石炭脈を採む。 ●37.86~37.91m: 破砕部 37.86~37.91m: 粘土混しり脆状部と深30°、下層35°で、幅40mm、褐色を呈し、下層側に幅1~2mmの反応性粘土を伴う。上層側にも層状の細粒部を採む。 37.91~38.80m: 上下位に比べて岩層の劣化は軽微である。岩芯は露新部から上部が褐色化する。劣化は酸化汚染は強い。割れ目の劣化汚染は顕著。マンガン汚染が見られる。	16 16 15 5 10	0 50 100	0 50 100	0 10 20 30 40 50																	
38						Bg	IIIe bfg		38.82~39.10m: 岩自体は硬質(硬さC)であるが、傾斜20°~30°程度の割れ目が密集する。割れ目沿いに細粒化、細粒化が見られる。 39.10~39.70m: 上記に比べて、割れ目は少ない。割れ目沿いの細粒化、細粒化は見られる。	15 5 10	0 50 100	0 50 100	0 10 20 30 40 50																	
39						Og	IVe	δ	39.70~39.88m: 選択的に酸化汚染を深く受け、褐色を呈する(特に39.80mの傾斜5°の割れ目周辺部)。割れ目面にはマンガン結晶が見られる。 39.88~40.12m: 岩層が劣化し、深さまで細粒化、細粒化が見られる。	5 10	0 50 100	0 50 100	0 10 20 30 40 50																	

第7.4.4.236図 (8) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1Z)

標尺 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 裂 目 の 形 状	風 化 変 質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験					室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ト / ビ ッ ト	給 圧 (MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
												(N)	(N)	(N)	(N)	(N)																	
41				明赤灰 褐灰	Eg Vt Dg Vt Og Vt	γ δ		40.12~41.10m: 岩盤が劣化し割れ目が密着する。若自体もやや軟質となる。 40.46~41.01m: 褐色鉱物に富む。色指数10%程度。硬質層 (トーナール層) 65~40.04m: 傾斜20~40° 程度の割れ目が主体。割れ目沿いに鉄燐鉱に酸化汚染を帯びてマンガンが析出される。上下位の酸化汚染は軽微であり、選択的な酸化汚染帯層部である。 41.16~41.59m: 上下位に比べ岩盤の劣化は軽微であり。劣化は軽微である。割れ目には鉄燐鉱は認められず。わずかに酸化汚染が認められる。 41.59~41.84m: 上位に比べて岩質は軟質となり。高次割れ目が直ら。高次割れ目と低次割れ目の間に細片化。細粒化が認められる。 41.84~42.02m: 上位は下部に比べてやや軟質であるが、概ね硬質である。	7 0																								
42			花崗岩	灰褐	Og Vt Dg Vt Eg Vt	γ δ		●42.02~42.88m: 硬砂部 上下層とも45° 傾斜の積層を呈す。 42.02~42.82m: 粘土混じり層状部 (H) 上層45° で層積的。下層45° で不明層。灰白色を呈する。 42.82~42.88m: 砂混じり層状部 (H) 上層48° で不明層。下層45° で層積的。やや軟質。底岩層は認められない。灰白色を呈する。下部に幅1~8mmの灰白色粘土を挟む。 42.88~43.10m: 上下位の硬砂部に挟まれ。層状部がある。如の軟質部が層状部に見られる。 ●43.19~43.62m: 硬砂部 上層45° 下層40° の積層を呈す。 43.19~43.21m: 粘土混じり層状部 (H) 上層42° で波打つ。下層43° で層積的。灰白色を呈する。厚10mm。 43.21~43.27m: 硬砂部 傾斜43° で概50mmの褐色粘土からなる。 43.21~43.27m: 粘土混じり層状部 (H) 上層43° で層積的。下層40° で波打つ。層状部を呈する。土質硬砂部 (H) 43.27~43.29m: 下層44° で層積的。土質硬砂部。灰白色を呈する。 43.33~43.49m: 粘土混じり層状部 (H) 下層44° で層積的。下層45° で層積的。褐色を呈する。粘土質硬砂部 (H) 43.49~43.60m: 粘土質硬砂部 (H) 上層45° で層積的。下層52° で波打つ。灰白色を呈する。 43.60~43.62m: 硬質粘土状部 (H) 上層52° で波打つ。下層50° で波打つ。褐色を呈する。幅10mm程度。 43.62~44.50m: 硬砂部の下層であり劣化が劣化し割れ目は多い。44.30~44.46m付近の傾斜10~50° の割れ目に酸化汚染やマンガンの蓄積が見られる。 44.50~45.27m: 若自体は硬質となり割れ目も少ない。岩盤が劣化し細片化する。	16 130																								
43					Eg Vt Dg Vt Og Vt	δ ε		●42.02~42.88m: 硬砂部 上下層とも45° 傾斜の積層を呈す。 42.02~42.82m: 粘土混じり層状部 (H) 上層45° で層積的。下層45° で不明層。灰白色を呈する。 42.82~42.88m: 砂混じり層状部 (H) 上層48° で不明層。下層45° で層積的。やや軟質。底岩層は認められない。灰白色を呈する。下部に幅1~8mmの灰白色粘土を挟む。 42.88~43.10m: 上下位の硬砂部に挟まれ。層状部がある。如の軟質部が層状部に見られる。 ●43.19~43.62m: 硬砂部 上層45° 下層40° の積層を呈す。 43.19~43.21m: 粘土混じり層状部 (H) 上層42° で波打つ。下層43° で層積的。灰白色を呈する。厚10mm。 43.21~43.27m: 硬砂部 傾斜43° で概50mmの褐色粘土からなる。 43.21~43.27m: 粘土混じり層状部 (H) 上層43° で層積的。下層40° で波打つ。層状部を呈する。土質硬砂部 (H) 43.27~43.29m: 下層44° で層積的。土質硬砂部。灰白色を呈する。 43.33~43.49m: 粘土混じり層状部 (H) 下層44° で層積的。下層45° で層積的。褐色を呈する。粘土質硬砂部 (H) 43.49~43.60m: 粘土質硬砂部 (H) 上層45° で層積的。下層52° で波打つ。灰白色を呈する。 43.60~43.62m: 硬質粘土状部 (H) 上層52° で波打つ。下層50° で波打つ。褐色を呈する。幅10mm程度。 43.62~44.50m: 硬砂部の下層であり劣化が劣化し割れ目は多い。44.30~44.46m付近の傾斜10~50° の割れ目に酸化汚染やマンガンの蓄積が見られる。 44.50~45.27m: 若自体は硬質となり割れ目も少ない。岩盤が劣化し細片化する。	17 172																								
44				淡赤褐	Dg Vt Og Vt	γ δ		43.21~43.27m: 硬砂部 傾斜43° で概50mmの褐色粘土からなる。 43.21~43.27m: 粘土混じり層状部 (H) 上層43° で層積的。下層40° で波打つ。層状部を呈する。土質硬砂部 (H) 43.27~43.29m: 下層44° で層積的。土質硬砂部。灰白色を呈する。 43.33~43.49m: 粘土混じり層状部 (H) 下層44° で層積的。下層45° で層積的。褐色を呈する。粘土質硬砂部 (H) 43.49~43.60m: 粘土質硬砂部 (H) 上層45° で層積的。下層52° で波打つ。灰白色を呈する。 43.60~43.62m: 硬質粘土状部 (H) 上層52° で波打つ。下層50° で波打つ。褐色を呈する。幅10mm程度。 43.62~44.50m: 硬砂部の下層であり劣化が劣化し割れ目は多い。44.30~44.46m付近の傾斜10~50° の割れ目に酸化汚染やマンガンの蓄積が見られる。 44.50~45.27m: 若自体は硬質となり割れ目も少ない。岩盤が劣化し細片化する。	2 0																								

第7.4.4.236図 (9) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-17)

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬さ	割れ目の形状	風化	記	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N) 値	() 試験	原位置試験 (孔壁係数)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁係数	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水水量 (L/分)	排水水量 (L/分)						
									最大コア長 (cm)	RQD (%)																				
61								60.11m: 傾斜65°の割れ目に幅1~2mmの黄色砂を挟む。 60.34~60.37m: 傾斜60~65°の同系線の割れ目が分布する。60.37mに幅1mmのマンガン脈を挟む。 60.72m: 傾斜65°で幅4~6mmの黒褐色を呈するマンガン脈状物質が見られる。傾斜は不明である。マンガン脈を伴う斑状酸化層である。 60.90m: 傾斜45°で幅15~20mmのマンガン脈を挟む。マンガン脈中にハ ●61.00~61.22m: 凝結部 61.46m: 1.2m程度の上下位の斑状酸化層と挟む。いずれも凝結部は局部的。傾斜3.7mm程度。下部の傾斜は軽微で、岩片は硬質(硬さ不明)であり、原岩の風化を著す。酸化色を呈する。61.09mにはフィルム気の凝結部がある。62.20m: 岩片は一部緑色化し、着色物質の固形は褐色化する。割れ目にはマンガンが形成され、凝結部な割れ目も酸化培養を帯び褐色を呈する。 62.20~62.59m: 上下位に比べて硬質となる。岩片は新節節が見られるが、至るの割れ目は褐色化する。 62.59~62.63m: 上部に比べ軟質となる。岩片は軟質で、硬さ不明。割れ目沿いに細酸化する。 62.88~62.97m: 傾斜45~50°の同系線の割れ目によりマンガンが形成される。割れ目沿いの岩片は硬質となる。割れ目沿いの岩片は黄色花毛も上部に比べて軽微ではあるが、凝結部は見られる。 62.97~63.31m: 上部に比べて割れ目は少なく、下部には新節節が見られる。62.97~63.11mは割れ目の周辺まで酸化培養を帯び、マンガンが凝結する。 63.31~63.37m: 岩片は硬質で新節節である。岩片は硬質で、硬さ不明。割れ目沿いに凝結部が見られる。 63.37m: 傾斜15°の微細な割れ目沿って幅5~10mmの黒褐色の酸化層が見られる。 63.73~63.97m: 上下位に比べて岩質が劣化し、割れ目が多い。凝結部はマンガンが形成される。割れ目には酸化層が見られる。 63.97~64.01m: 岩片自体は硬質で岩片には酸化層の酸化層が見られる。割れ目沿いは岩質が劣化し細酸化する。岩片は硬質で、硬さ不明。割れ目沿いに凝結部がある。傾斜60~90°の黒褐色割れ目と傾斜10~30°の褐色酸化層が見られる。岩片は硬質で、硬さ不明。 64.00~64.22m: 傾斜60~70°の割れ目周辺にマンガン脈が見られる。64.22m: 傾斜60°の岩片は硬質で、硬さ不明。その周辺に褐色を呈する凝結部が形成される。凝結部はマンガンが凝結する。 64.48~64.59m: 鉛筆方向の割れ目が見られる。																						
62			花崗岩															95		タマルコチーノ / タイヤキョンドロ										
63																		97		タマルコチーノ / タイヤキョンドロ										
64																		100		タマルコチーノ / タイヤキョンドロ										

第7.4.4.236図 (13) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図 (N値)	原位置試験 (孔内水圧電)	空内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	掘進速度 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
66						IV ₄	IV ₄			65.03~65.42m: 傾斜10~50°の同系級の割れ目が発達し、一部の面に傾斜0.5~1mmの跡を認む。 65.67~66.61m: 上下位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、割れ目は少ない。割れ目沿いの岩の劣化は認められない。岩芯は軽く褐色化し、割れ目は全て褐色化する。 66.78~66.77m: 傾斜40°の割れ目沿いに細片化した割れ目部集積部がある。	0	10	CL [*]					9/14												
67				花崗岩		IV ₄	IV ₄			66.61~67.06m: 傾斜40°前後の割れ目が発達し、割れ目が多い。割れ目沿いに褐色化する。岩芯は硬さ80の硬質部が見られる。 66.84m: 傾斜50°の割れ目沿いに明確な褐色の黄鉄鉱物が見られる。 67.03m: 傾斜60°の割れ目に褐色の黄鉄鉱物を含み、明確な褐色の黄鉄鉱物が見られる。 67.06~67.42m: 上下位に比べ割れ目はわずかに少なくなるが、割れ目沿いの褐色化が認められ、67.19mの傾斜40°の割れ目には明確な褐色の黄鉄鉱物が見られる。 67.53m: 傾斜46°の割れ目に沿って黄鉄鉱物が発達している。 67.43~67.90m: 傾斜45°前後の割れ目沿いに4cm間隔で見られる。 67.60m: 傾斜~10mmのマンガン濃集層が分布する。	0	15	CL [*]																	
68				花崗岩		IV ₄	IV ₄			67.93~67.99m: 傾斜45°の割れ目に傾斜45°前後の黄鉄鉱物を含む。傾斜45°前後の黄鉄鉱物を含む。 67.99~68.22m: 上位に比べて割れ目がやや少なくなり、コアはやや硬く見られる。 68.22~68.60m: 上下位に比べて割れ目は少なく、傾斜45~60°の割れ目が存在する。 68.38~68.50m: 傾斜20~30°の割れ目部集積部で、全ての割れ目にマンガンが付着する。 68.03~68.08m: 傾斜5~10°の割れ目沿いに細片化する。 68.67~70.54m: 上位に比べてわずかに割れ目が多くなり、上位に比べて顕著な割れ目が発達し、割れ目沿いに褐色化する。	0	15	CL [*]																	
69						IV ₄	IV ₄			69.26~69.42m: 傾斜50~70°の同系級の割れ目が分布する。全ての割れ目面に褐色化が認められる。	0	1	CL [*]																	

第7.4.4.236図 (14) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	記	コア採取率		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)													
										→ (%)	→ cm			() 値	() 図																								
— 86			赤灰	Dg	Dg	2	Vz	2	<p>95.30~85.60m: 変質作用による凝結 化跡で、割れ目が密集し垂直状を 呈す。灰石類は変質し不規則・不連 続な灰白色粘土の細断が現られる。 95.34m: 傾斜5°で幅2~3mmの石英 脈を挟む。92%。上下位に比べて変質 作用により、変質が強化する。原状 組織は不明瞭となり、微細な粘土脈 が構自然に現る。割れ目は消滅す る。 85.82~86.33m: 上位に比べて変質作 用による岩質の劣化は軽微である。 灰石類が変質し割れ目は認められ ず。原状組織及び割れ目は認められ ない。 86.00~86.15m: コアは傾斜し、岩片 状を呈する。 86.33~86.45m: 変質作用による凝結 化跡で、灰白色粘土が構自然に分 層状を呈す。傾斜5°で、原状組織は 上下位に比べ、原状組織は 不明瞭となる。灰石類は白濁し、軟 質化している。 86.48~87.2m: 一部に非変質岩層が 見られるが、割れ目一般に変質作用に より影響が強化し軟質となる。灰石 類は変質して変質し、緑灰色の変質産物 が現られる。</p>	0	50	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
										6	10	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
										2	10	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
										4	10	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
										5	10	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
										15	15	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
										87			赤灰	Dg	3		7		<p>87.21~88.73m: 灰石類の一部に変質 が現られる。掘進方向の割れ目と傾 斜15~60°の割れ目が交差し、割れ 目は粗大する。割れ目の形状は 浸食を呈し、割れ目の開口部は 浸食を呈し、88.50~88.73mでは浸 食まで酸化汚染を受け、狭く褐色を呈 する。</p>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
										88			赤灰						<p>87.95m: 傾斜50°の割れ目に幅1~6m mmの黒色の砂を挟む。 88.00~88.82m: コアは傾斜し、岩片 状を呈する。</p>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
										89			緑灰	Dg	2				<p>88.79~89.07m: 上位に比べて岩質の 劣化は軽微となり、割れ目は少ない。 90.00~90.60m: 傾斜50°の割れ目 のが多数で、それに交差する傾斜60° の傾斜の微細な割れ目も発達する。 褐色を帯びる89.00~89.07mには傾斜 30~55°程度の割れ目が発達し、割 れ目が多くなる。 89.07~90.47m: 割れ目沿いに岩層が 劣化し、酸化汚染を呈する。傾斜は 傾斜45~60°の割れ目が発達する。 90.01m: 傾斜70°の割れ目に幅1mmの 白色シルトを中流に挟む。</p>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第7.4.4.236図 (18) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の形状	風化	記	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	孔内水位 (m) / 測定月日	孔内水圧 (MPa)	給回転数 (rpm)	送水水量 (L/min)	排水水量 (L/min)														
96			明礬灰	明礬灰	<table border="1"> <tr><td>Cg</td><td>VE</td><td>γ</td></tr> <tr><td>Bg</td><td>ME</td><td>CG</td></tr> <tr><td>Dg</td><td>VE</td><td>δ</td></tr> </table>	Cg	VE	γ	Bg	ME	CG	Dg	VE	δ	<table border="1"> <tr><td>Cg</td><td>Bg</td><td>γ</td></tr> </table>	Cg	Bg	γ	<p>95.09~95.27m: 上傾55°, 下傾40°の割れ目で囲まれた中石状の塊状残留筋である。</p> <p>95.27~95.56m: 傾斜55°~55°の割れ目が10m間隔で平行に分布する。風化で軟質化する。割れ目の面に幅0.5~1mmのマングランを嵌め、</p> <p>95.56~96.44m: 縦貫で貫通割れ目もよく発達し、ハンマー一撃打でも砕けない。</p> <p>割れ目の面はごく薄く赤褐色風化。粘土系や粘土付帯なし。</p> <p>96.80m: 傾斜80°で傾1~2mmの石英脈を嵌め、</p>	<p>95.44~97.01m: 全柱に風化と変質を認め、柱状より軟弱である。凝灰が目の状の石英の白濁化でマングラン凝灰が目立つ。要質粘土脈は分布しない。</p>	<p>97.21~97.54m: 縦貫による白濁化した表石は少なく、コアは硬い。</p> <p>97.22~97.54m: 傾斜方向の割れ目が連続する。</p>	<p>97.54~97.80m: 縦貫により白濁化した表石が多くなる。また、一部に傾1~2mmで連続性はないが、軟質なシルト色の白濁の層状部がある。</p> <p>97.80m: 傾斜50°の範囲でマングラン汚染が見られる。</p> <p>97.86~98.24m: 縦貫は弱い。風化により縦貫が劣化する。傾斜30~60°の割れ目が多く、割れ目にはマングラン汚染が見られ、割れ目によって風化が進む。</p> <p>98.24から98.53m: 傾斜35°の割れ目が多い硬質部。</p>	<p>98.53~99.51m: 傾斜35°~40°と80~90°の割れ目が交差し、傾1~20mmの軟弱な層状部が再面積し、傾斜50°の割れ目も発達している。傾斜50°~60°と80°の割れ目が交差して岩片状を呈する。全体にマングラン汚染が見られる。色を帯びている。</p> <p>99.14m: 傾斜70°の粘土を伴わない割れ目は10~30°の密着した岩片状割れ目を止めていることが多いが、一部は交差する。</p>	<p>99.90m付近では、各割れ目にマングラン汚染が見られる。傾10~30°の割れ目と90°の割れ目が傾斜50°の層状部に囲まれてマングランが幅6cmで濃集する。</p> <p>99.80~101.74m: 割れ目は多いが、全体に割れ目主体で軟弱な割れ目も含め1~5m間隔で平行に分布する。所々で、割れ目沿いに細かく縦貫され、砂状化を呈す。</p>	<p>97.21</p> <p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>
Cg	VE		γ																											
Bg	ME		CG																											
Dg	VE	δ																												
Cg	Bg	γ																												
97			礫灰	礫灰	<table border="1"> <tr><td>Dg</td><td>VE</td><td>δ</td></tr> </table>	Dg	VE	δ	<table border="1"> <tr><td>Dg</td><td>VE</td><td>δ</td></tr> </table>	Dg	VE	δ	<p>97.22~97.54m: 傾斜方向の割れ目が連続する。</p>	<p>97.22~97.54m: 傾斜方向の割れ目が連続する。</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>	<p>97.22</p> <p>97.23</p> <p>97.24</p>									
Dg	VE		δ																											
Dg	VE		δ																											
98			明礬灰	明礬灰	<table border="1"> <tr><td>Cg</td><td>IVg</td><td>CG</td></tr> </table>	Cg	IVg	CG	<table border="1"> <tr><td>Cg</td><td>IVg</td><td>CG</td></tr> </table>	Cg	IVg	CG	<p>97.86~98.24m: 縦貫は弱い。風化により縦貫が劣化する。傾斜30~60°の割れ目が多く、割れ目にはマングラン汚染が見られ、割れ目によって風化が進む。</p>	<p>97.86~98.24m: 縦貫は弱い。風化により縦貫が劣化する。傾斜30~60°の割れ目が多く、割れ目にはマングラン汚染が見られ、割れ目によって風化が進む。</p>	<p>97.86</p> <p>97.87</p> <p>97.88</p> <p>97.89</p> <p>97.90</p>	<p>97.86</p> <p>97.87</p> <p>97.88</p> <p>97.89</p> <p>97.90</p>	<p>97.86</p> <p>97.87</p> <p>97.88</p> <p>97.89</p> <p>97.90</p>	<p>97.86</p> <p>97.87</p> <p>97.88</p> <p>97.89</p> <p>97.90</p>	<p>97.86</p> <p>97.87</p> <p>97.88</p> <p>97.89</p> <p>97.90</p>	<p>97.86</p> <p>97.87</p> <p>97.88</p> <p>97.89</p> <p>97.90</p>										
Cg	IVg		CG																											
Cg	IVg		CG																											
99			にぶい礫	にぶい礫	<table border="1"> <tr><td>Dg</td><td>VE</td><td>γ</td></tr> </table>	Dg	VE	γ	<table border="1"> <tr><td>Dg</td><td>VE</td><td>γ</td></tr> </table>	Dg	VE	γ	<p>99.14m: 傾斜70°の粘土を伴わない割れ目は10~30°の密着した岩片状割れ目を止めていることが多いが、一部は交差する。</p>	<p>99.14m: 傾斜70°の粘土を伴わない割れ目は10~30°の密着した岩片状割れ目を止めていることが多いが、一部は交差する。</p>	<p>99.14</p> <p>99.15</p> <p>99.16</p> <p>99.17</p> <p>99.18</p> <p>99.19</p>	<p>99.14</p> <p>99.15</p> <p>99.16</p> <p>99.17</p> <p>99.18</p> <p>99.19</p>	<p>99.14</p> <p>99.15</p> <p>99.16</p> <p>99.17</p> <p>99.18</p> <p>99.19</p>	<p>99.14</p> <p>99.15</p> <p>99.16</p> <p>99.17</p> <p>99.18</p> <p>99.19</p>	<p>99.14</p> <p>99.15</p> <p>99.16</p> <p>99.17</p> <p>99.18</p> <p>99.19</p>	<p>99.14</p> <p>99.15</p> <p>99.16</p> <p>99.17</p> <p>99.18</p> <p>99.19</p>										
Dg	VE		γ																											
Dg	VE		γ																											

第7.4.4.236図 (20) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	柱状	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内圧應)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
101	51.32101.74	花崗閃岩	Og	β	Og	IVe	eg	γ	100.10m: 傾斜65°, 傾斜5mmで径2~3mmの岩片と緑灰色シルトを挟む。 100.27m: 傾斜70°, 傾斜8mmで径5mmの岩片と緑灰色シルトを挟む。 100.48~100.50m: 傾斜75°, 幅1cmで径1cmに細片化する。 100.66~100.67m: 傾斜5°で幅0~1.5mmの石英脈を挟む。100.81m: 傾斜40°で面まれた断面で、傾斜6mで径0.5cmの角礫を含み粗粒化している。 101.17mの傾斜65°と101.22mの傾斜20°及150°の割れ目で面まれた断面が、傾斜1~4cm、径0.5~1cmの岩片状を呈する。粘土分はほとんど見わなく、マンガン汚染を併発。 101.74~150.00m: アブライト 101.74m: 傾斜60°の割れ目密集部がある。 102.04m: 傾斜60°の割れ目沿いが径0.5~2cmの角礫状に散れる。 102.22m: 傾斜60°の割れ目面に酸化汚染が更られる。 102.22~102.54m: 傾斜20~30°の密集割れ目が更られるが、割れ目沿いの細片には見られず、コアは比較的に割れ目が多い。 102.55~103.08m: 傾斜90~40°、傾斜70~90°の割れ目が発生し、割れ目密集部は細粒湿り砂状コアとなり、狭くなっている。 103.09~103.52m: 傾斜60~70°の密集割れ目を多く含むが、ハンマーの打撃では分離・細粒化しない。 103.52~104.26m: 傾斜55~60°の割れ目やや多く分布するが、コアは清潔である。割れ目には存在物は分布しない。 104.15~104.26m: 傾斜65°の割れ目が2cm間隔で分布し、一部で径1~2cmの岩片状となる。粘土は付着しない。 104.26~104.38m: 傾斜65°の割れ目が分布する。割れ目はハンマーの打撃で分離しない。 104.82~104.88m: 傾斜45~70°で幅2~5mmの石英脈を2本挟む。 104.90~106.30m: 傾斜10~30°と60~80°の割れ目が交差し、完全に割れ目沿いがない。割れ目はハンマーの打撃で分離しない。岩片コアを主とする。	0	50	100																			
102	51.32101.74								アブライト	Dk	γ	Dk	Ve	eg	γ	102.55~103.08m: 傾斜90~40°、傾斜70~90°の割れ目が発生し、割れ目密集部は細粒湿り砂状コアとなり、狭くなっている。 103.09~103.52m: 傾斜60~70°の密集割れ目を多く含むが、ハンマーの打撃では分離・細粒化しない。 103.52~104.26m: 傾斜55~60°の割れ目やや多く分布するが、コアは清潔である。割れ目には存在物は分布しない。 104.15~104.26m: 傾斜65°の割れ目が2cm間隔で分布し、一部で径1~2cmの岩片状となる。粘土は付着しない。 104.26~104.38m: 傾斜65°の割れ目が分布する。割れ目はハンマーの打撃で分離しない。 104.82~104.88m: 傾斜45~70°で幅2~5mmの石英脈を2本挟む。 104.90~106.30m: 傾斜10~30°と60~80°の割れ目が交差し、完全に割れ目沿いがない。割れ目はハンマーの打撃で分離しない。岩片コアを主とする。	0	50	100												
103		アブライト	Dg	δ	Dg	Ve	eg	δ								103.09~103.52m: 傾斜60~70°の密集割れ目を多く含むが、ハンマーの打撃では分離・細粒化しない。 103.52~104.26m: 傾斜55~60°の割れ目やや多く分布するが、コアは清潔である。割れ目には存在物は分布しない。 104.15~104.26m: 傾斜65°の割れ目が2cm間隔で分布し、一部で径1~2cmの岩片状となる。粘土は付着しない。 104.26~104.38m: 傾斜65°の割れ目が分布する。割れ目はハンマーの打撃で分離しない。 104.82~104.88m: 傾斜45~70°で幅2~5mmの石英脈を2本挟む。 104.90~106.30m: 傾斜10~30°と60~80°の割れ目が交差し、完全に割れ目沿いがない。割れ目はハンマーの打撃で分離しない。岩片コアを主とする。	0	50	100												
104									アブライト	Bg	γ	Bg	Ve	eg	γ	104.15~104.26m: 傾斜65°の割れ目が2cm間隔で分布し、一部で径1~2cmの岩片状となる。粘土は付着しない。 104.26~104.38m: 傾斜65°の割れ目が分布する。割れ目はハンマーの打撃で分離しない。 104.82~104.88m: 傾斜45~70°で幅2~5mmの石英脈を2本挟む。 104.90~106.30m: 傾斜10~30°と60~80°の割れ目が交差し、完全に割れ目沿いがない。割れ目はハンマーの打撃で分離しない。岩片コアを主とする。	0	50	100												

第7.4.4.236図 (21) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	柱状区分	岩種区分	色調	硬度	コア硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記	コア採取率 — (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	標準貫入 (N) 値	試験 (図)	原位置試験 (穴内土壌)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進深度 (mm)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水水量 (L/分)	排水水量 (L/分)
106		[柱状図]	[色調]	[岩種区分]	[色調]	[硬度]	[コア硬軟]	[コア形状]	[割れ目の状態]	[風化]	<p>105.30~105.02m: 割れ目が少ない硬質コアで微細な割れ目も少ない。</p> <p>105.54m: 傾斜20°で幅10~15mmの帯緑灰色脈が、傾斜80°で幅1mmの石英脈で示しているように見えるが、スレの量は各地点で一致しない。磁鉄や重質は伴わない。</p> <p>105.84m: 傾斜35°で幅3mmの石英脈が認められる。</p> <p>106.33~106.22m: 傾斜85°と10°の割れ目が交差し、一部岩片を呈する。粘土は付着しないが、傾斜80°の割れ目にはマンガンが付着する。</p> <p>106.22~105.06m: 割れ目が少ない硬質なコアからなる。</p> <p>106.55m: 傾斜60°で幅0.5mmの石英脈を伴む。</p> <p>106.80m: 傾斜10°の割れ目沿いが、上部約15mm、下部約25mmでマンガン脈染により緑灰色化するが、岩脈の劣化は認められない。</p> <p>106.92m: 傾斜35°で幅2~4mmの固結した白色脈染を伴む。</p> <p>107.05~107.61m: 傾斜40~50°の3条の割れ目沿いにマンガン脈染が見られる。</p>	<p>45 (100%)</p> <p>46 (100%)</p> <p>45 (100%)</p> <p>42 (100%)</p> <p>4 (0)</p>	OH	<p>50</p> <p>100</p>	<p>50</p> <p>100</p>	<p>0</p> <p>10</p> <p>20</p> <p>30</p> <p>40</p> <p>50</p>	<p>8:24</p> <p>8:23</p>	<p>130</p>	<p>85</p> <p>茶</p>	タリコブ / タリコブ	85.8	100	0.1	0	0		
107																											
108																											
109																											

第7.4.4.236図 (22) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	柱状区分	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図	原位試験 (元内圧書)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進深度 (m)	孔徑 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
116																																	
											115.67~115.75m: 傾斜45°程度の微細な割れ目が発達し、空気も閉鎖であるが、空気の程度は弱い。コアは細粒状の一部、土砂を呈する。傾斜20°~45°の割れ目に暗緑色の鉱物付着が認められる。割れ目沿いの酸化鉄付着及びマンガン結核が認められる。傾斜45°程度の90°の割れ目が発達し、岩片状コアとなる。傾斜90°の割れ目に傾1~5mmの砂及び暗緑色の鉱物を不連続に含む。	7 [10]																					
											116.67~116.96m: 傾斜90°の割れ目と傾斜40°程度の細かい割れ目が発達し、細粒状~土砂を呈する。116.67~116.97m: 細粒状で緻密な暗灰色を呈する石英脈が不規則に分布している。116.96~117.61m: 傾斜90°の割れ目によって、0.5~1mm程度の高角度の微細な割れ目が発達する。	9 [9]																					
117																																	
											117.61~117.65m: 傾斜40°~45°の割れ目に暗緑色の鉱物が付着する。117.61~117.87m: 傾斜40°~55°の割れ目が多く、傾斜90°の割れ目と交差し、岩片状~細粒状コアからなる。	11 [13]																					
											118.08~118.14m: 傾斜50°~60°の割れ目に傾0.5mmの暗緑色の鉱物が付着し、割れ目沿いに発達する。	13 [22]																					
118																																	
											119.05m: 傾斜45°の割れ目に傾2~3mmの褐色砂質しり粘土を挟む。119.05~119.35m: 全体に弱い変質を呈し、褐色や灰色である。全体に明褐色を呈する。傾斜90°の割れ目に傾1~2mmの褐色粘土を挟む。	14 [14]																					
											119.51~120.10m: 傾斜10~20°の割れ目に傾10~20°の割れ目が多く見られる。	15 [15]																					
119																																	

第7.4.4.236図 (24) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア割れ目形状	風化	変質	記	コア採取率		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	() 値	() 図	原位置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (m/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップノズル	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
											→ (%)	← (%)																				
121										120.39~120.67m: 有色鉱物が漂集し、灰色を呈する。 120.67~122.58m: 傾斜45~60°の割れ目が1~15cm間隔で発達し、それに伴う葉状な割れ目が約0.5~1cmの間隔で互に交差する部分でコア全体に発達し、中角程度の割れ目に葉状線が露出。 121.10~121.20m: 短い筋状のマンガロンが不規則に分布する。	0	14	100																			
122										121.59~121.68m: 傾斜65°の露在割れ目が発達し、葉質がやや明確である。明視放射を呈する。 121.68m: 傾斜65°の割れ目に沿って幅1~2mmの薄灰色を呈する。 122.05~122.25m: 短い筋状のマンガロンが不規則に分布する。	0	6	100																			
123				アフライト	褐色	Gt				122.28m: 傾斜45°の割れ目周辺が葉質し、岩片状を呈する。 122.59~122.87m: 傾斜40~60°の割れ目及び葉質が発達し、岩片状を呈する。 122.65~122.79m: 傾斜45~60°の割れ目が発達し、岩片状を呈する。 123.19~124.32m: 明確な割れ目は傾斜60°程度で、微細な割れ目も発達し、亀甲状を呈する。上下位に比べて割れ目に沿って薄灰色の割れ目には鮮やかな葉質が見られるが、岩片は鮮明ではない。 123.58m, 123.72m, 124.02m: 14m付近は割れ目沿いに葉質が劣化し、細片化・凝結化する。	0	5	100																			
124										124.33~124.77m: 鉛直方向の割れ目に沿って幅10mm程度にわたり、葉質作用を受け薄灰色の葉状鉱物が見られる。数箇所から発達する薄灰色の割れ目も見られ、割れ目の新に薄緑灰色の変質鉱物が見られる。 124.77~124.95m: 上下位に比べて変質作用による葉質の劣化は鮮明であり、やや薄緑となる。 124.95~125.05m: 傾斜65°の割れ目に沿って薄灰色の葉状鉱物が見られる。全体に褐色を帯びる。上下位に比べて軟質となる。	0	2	100																			

第7.4.4.236図 (25) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調軟化質	硬コアの形状	割れ目の状態	風化	記	コア採取率 — (%) — 最大コア長 — R Q D — [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 図	原位試験 (孔内土質層)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 分)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチャック / ヒット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	回水水量 (l / 分)	送水水量 (l / 分)	排水量 (l / 分)	
126			アライイト	細粒	細粒	δ 3		125.08~125.23m: 緑色し、赤色を帯びる。岩自体は上位に比べて硬質となる。125.23~125.25m: 傾斜10~30°の軟弱な岩片が散在している。傾斜30°~30°の割れ目も発露している。これらが交差し、塊状コアを主とする。割れ目に沿って発露し、暗緑~暗緑灰色を呈するが、岩片は概ね新鮮である。125.49~125.59m: 岩片状を呈する。	0 50 100	D'				130											
127			アライイト	揚灰	揚灰	δ 3		125.90~126.14m: 岩片状を呈する。	0 50 100	D'				8/28											
128			アライイト	揚灰	揚灰	δ 3		126.22~126.86m: 幅広く割れ目沿いの岩層変化が見られ、全ての割れ目に暗緑灰色の炭素質物が付着する。	0 50 100	D'				120											
129			アライイト	揚灰	揚灰	δ 3		126.86~128.25m: 割れ目沿いの炭素質物は概ねとなる。	0 50 100	D'															
129	-20.57	128.25	コア灰	揚灰	揚灰	δ 3		127.42~127.77m: 上下位に比べて割れ目沿いの岩層変化を挙げ、細片状の一部に細片状のスライムを言及。	0 50 100	D'															
129	-71.15	129.07	アライイト	揚灰	揚灰	δ 3		128.25~128.07m: コア灰如。細片状のスライムとして採取。	0 50 100	D'															
129	-71.70	129.85	コア灰	揚灰	揚灰	δ 3		129.07~129.74m: コアは長さ5~10cmの塊状を呈するが、各コアの割れ目には概ね傾斜10~30°の割れ目が存在し、ハンマーの発打で細片化する。	0 50 100	D'															
			コア灰	揚灰	揚灰	δ 3		129.90~129.53m: 傾斜60°、幅20cmでやや軟質化する(硬さ「D」)。径1~2cmの角礫や幅1mmの板打って連続する暗緑灰色の層断を念心。上層の128.59mの傾斜10°の割れ目に幅0.5~2.0cmの傾斜60°の割れ目も存在し、ハンマーの発打で細片化する。	0 50 100	D'															
			コア灰	揚灰	揚灰	δ 3		129.74~131.00m: 傾斜10~30°の細片状コアを呈する。割れ目化した岩片自体は概ね、岩片は傾斜10~30°、4.60~9.0°の割れ目をもつ。	0 50 100	D'															
			コア灰	揚灰	揚灰	δ 3		129.74~131.10m: 割れ目の一部に径1~2mmの暗緑灰色の炭素質物を伴う。粘土化していない。コア灰如。細片状のスライムとして採取。	0 50 100	D'															

第7.4.4.236図 (26) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	記	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	原位置試験 (室内圧縮)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔底保護	コアチュウノヒット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
									最大コア長 (cm)	RQD (%)														
-136	-15.54 (35.28)	[Pattern]	アゾライト	灰褐色	Dg	Ve	eg	135.00~135.20m: 凝灰作用による劣化前で、亀甲状の割れ目が見られる。一部、長さ10の凝灰部が残存するが、下部の空層に比べて軟質である。 135.24m: 傾斜40°で傾斜~12mmの暗緑灰色の凝灰層が見られる。上層部は下層部に比べて凝灰が劣化する。 135.28~137.57m: コア欠如。 細片状のスライムとして採取。	2	100	DL		9/12	60										
									0	0														
-137	-17.16 (37.57)	[Pattern]	コア欠如	灰茶	eg	eg	eg	137.57~137.80m: 傾斜40~60°程度の割れ目を主とし、一部岩片状を呈する。 137.80~138.27m: コア欠如。 細片状のスライムとして採取。	2	100	DL		9/22	90										
									0	0														
-138	-17.33 (37.82)	[Pattern]	アゾライト	灰茶	eg	eg	eg	138.27~138.72m: 傾斜70°の割れ目に暗緑灰色を呈する凝灰が不規則・不連続に認められる。138.61m: 割れ目傾斜は10m前後で、割れ目傾斜が急変する。凝灰層の割れ目は亀甲状を呈する。凝灰作用により一部白濁化する。上位に比べて軟質となる。割れ目は傾斜30~50°が主体である。	2	100	DL		11/18											
									0	0														
-139	-17.65 (38.27)	[Pattern]	アゾライト	褐色	eg	eg	eg	138.72m: 傾斜70°の割れ目に暗緑灰色を呈する凝灰が不規則・不連続に認められる。139.61m: 割れ目傾斜は10m前後で、割れ目傾斜が急変する。凝灰層の割れ目は亀甲状を呈する。凝灰作用により一部白濁化する。上位に比べて軟質となる。割れ目は傾斜30~50°が主体である。	2	100	DL													
									0	0														

第7.4.4.236図 (28) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	柱状区分	岩種区分	色調	硬度	コア形状	風変	記	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													() 値	() 値	() 値	() 値	() 値												
141		[Pattern]	灰褐色	赤灰	Dg	Vg eg	γ	3	140.19~140.22m: 傾斜55°程度の割れ目に暗赤色の鉱物が付着し、140.30m付近まで白濁し軟質となる。 140.61m: 傾斜45°の割れ目に幅0.5mの暗赤色の鉱物を挟み、上端部は岩盤が劣化し、細粒化・薄片化する。 140.67~141.13m: 上位に比べて、脱炭素化の劣化作用は軽微となる。 141.50~141.70m: 暗赤色の鉱物が濃縮する。炭質となる。 141.13~141.95m: 主として、劣化作用による岩盤劣化部であり、細目状の暗赤色の鉱物が見られる。炭質な割れ目が不規則に見られ、割れ目間隙は1cm未満となる。 141.50~141.70m: 暗赤色の鉱物が濃縮する。炭質となる。 141.95~142.05m: 炭質な割れ目が不規則に分布する。	3 0				11/18															
142																	2 0												
143		[Pattern]	灰赤	赤灰	Dg	Vg eg	β	2	142.71~142.85m: 傾斜45~70°の割れ目間隙が若干状を呈する。 143.31~143.35m: 傾斜45°、傾斜50°の割れ目間隙が変質して灰色を帯びて、 143.38~144.00m: 劣化作用による炭質の劣化はほとんど見られず、炭質な割れ目が1~3cm間隙で分布する。 傾斜10~20°程度の割れ目を主体とし、劣化不連続に分布する。 144.00m: 傾斜60°の割れ目に幅0.5m程度の赤灰色鉱物を挟む。 144.00~144.32m: 不規則に炭質な割れ目が見られ、割れ目間隙は1cm程度となる。 割れ目はいくつも白濁し、軟質となる。 144.32~144.67m: 炭質な割れ目が不規則に見られる。 割れ目間隙は1~3cm程度であり、劣化作用による岩盤の劣化は軽微とされる。 144.67~145.17m: 劣化作用により、赤色を帯び、暗赤色の鉱物が見られる。炭質な割れ目が不規則に見られる。割れ目間隙は1~3cm程度となる。	3 0				11/19															
144																	2 0												

第7.4.4.236図 (29) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調軟化質	硬さの形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) → cm → R O D → L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	値 (N)	(N 値 ~ 深度) 図 (標準貫入) 試験	原位試験 (孔内土質等)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給 圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水水量 (/ 分)	排水水量 (/ 分)					
146				アモナイト	Cg					145.12~145.77m: 不明な種類の割れ目と傾斜70~80°の割れ目が観察される。割れ目間隔は1~3cm程度である。 145.77~146.62m: 部分的に軟質作用を受け、暗緑灰色の炭化物及び磁晶が変えられる。岩自体は硬質である。散粒状な割れ目及び傾斜40~60°程度の割れ目が見られる。割れ目間隔は1~3cm程度となる。 145.83m: 傾斜60°の割れ目及びその他の傾斜部に暗緑灰色の炭化物が変えられる。 146.12m: 傾斜60°の割れ目に数mm程度の方解石脈を挟む。方解石脈中に花崗斑岩の薄片が見られる。 146.62~146.79m: 不明割に散粒状な割れ目が見られる。白濁し、上下互に比較できなくなる。割れ目間隔は1cm程度である。 146.79~149.10m: 軟質作用による岩質の劣化は軽微であり、岩質は比較的硬質である。割れ目には明瞭な暗緑灰色の炭化物が付着する。一部不明な散粒状な割れ目が見られる。割れ目間隔は1~3cm程度となる。割れ目の低角な割れ目も観察される。散粒状な割れ目は傾斜50~70°が主体である。 147.70~148.10m: 粗粒な割れ目に明瞭な暗緑色の炭化物を挟む。	3 (0)	100																		
147				アモナイト	Cg					148.65~148.88m: 傾斜5~55°の割れ目が交差して岩片状を呈する。 149.10~149.25m: 傾斜10°程度の散粒状な割れ目が見られる。割れ目間隔は1~3cm程度となる。割れ目には暗緑灰色の炭化物が付着する。割れ目間隔は1~3cm程度となる。割れ目には暗緑灰色の炭化物が付着する。割れ目間隔は1~3cm程度となる。割れ目の低角な割れ目も観察される。散粒状な割れ目は傾斜50~70°が主体である。 149.25~150.00m: 散粒状な割れ目が不明割に思われる。割れ目間隔は1~3cm程度となる。割れ目には暗緑灰色の炭化物が付着する。割れ目間隔は1~3cm程度となる。割れ目の低角な割れ目も観察される。散粒状な割れ目は傾斜50~70°が主体である。割れ目が交差して岩片状を呈する。	3 (0)	100																		
148				アモナイト	Cg																									
149				アモナイト	Cg																									
	85.95	150.00																												

第7.4.4.236図 (30) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)



第7.4.4.236図 (31) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)



第7.4.4.236図 (32) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)



第7.4.4.236図 (33) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)



第7.4.4.236図 (34) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)



第7.4.4.236図 (35) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)



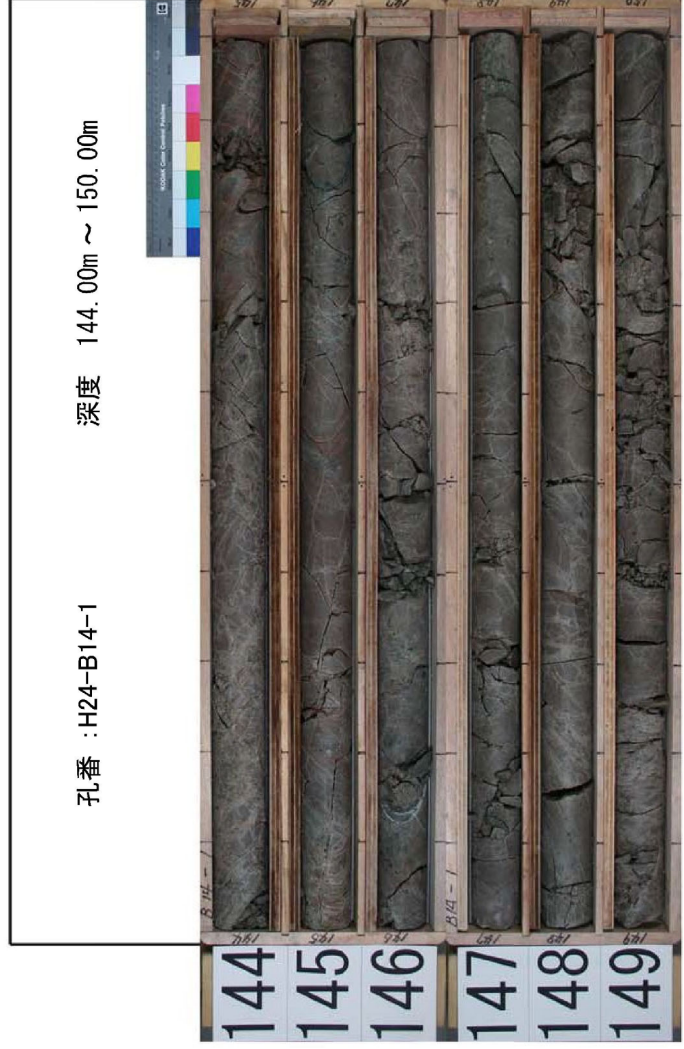
第7.4.4.236図 (36) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)



第7.4.4.236図 (37) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)



第7.4.4.236図 (38) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)



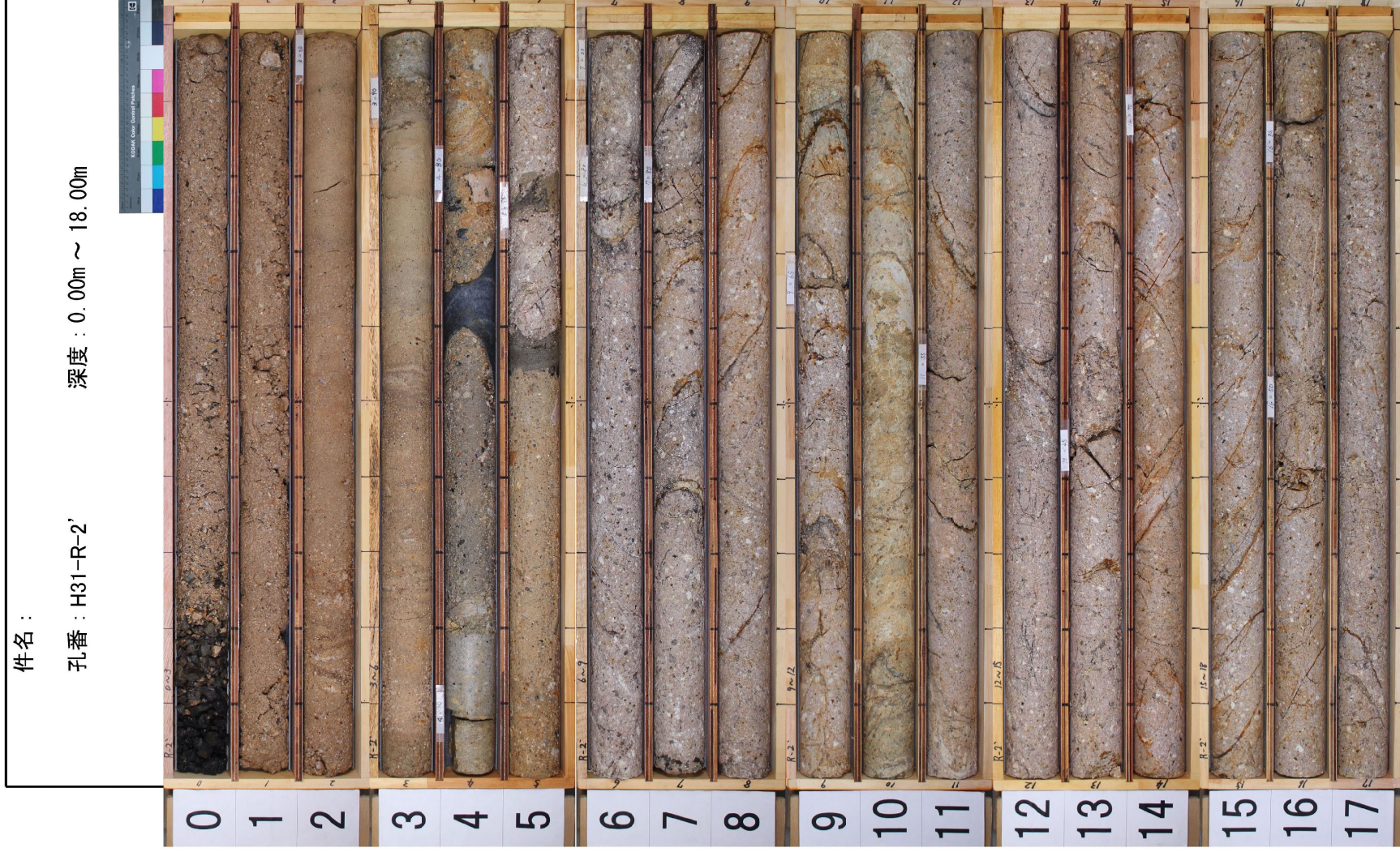
第7.4.4.236図 (39) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H24-B14-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	柱状区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定日	(N) 値	(N値~深度) 図	原位試験 (圧入率)	室内試験日	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔徑 (mm) / 孔壁保護	コア工程 / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
21	-21		花崗岩	深黄緑	硬	IV	γ	2	3	20.23~20.49m: 変質部で角礫状を呈すが、原岩組織は残存する。上部・下部とも漸移的である。20.37mに傾斜3°で厚5mm以下の軟質角礫状を呈する。20.46~22.15m: 原岩組織を呈するが、原岩組織は残存する。マングン汚染が顕著に呈される。22.65~22.71m: 変質部で砂是しり角礫状を呈するが、原岩組織は残存する。上部81°, 下部70°。褐色化を呈し、灰白色のシルトが層状に分布する。24.17~25.00m: アブライトである。径2~10mm程度の石英、緑石の斑を認め度含む。花崗岩とは漸移的である。	18 19 20 21	D	40 31	0	50	100	334	6/3	6/3	130	0.1	10	10	0.1	10	10	10	
22	-22		花崗岩	黄緑	硬	IV				25.32~25.57m: 砂礫状コアからなる。25.63~25.75m: ヘクマタイトを挟む。径20mm程度の石英、カリ長石がらなる。	22 23	D																
23	-23		花崗岩	明赤灰	硬	IV	δ	2		●27.43~27.48m: 磁鉄部 27.43~27.44m: 灰白色粘土状シルト c-1)。径50mm程度で軟質、上部69°で傾斜7°、40m。粘土是しり角礫状砂状部(H) やや軟質である10%原岩組織は残存する。灰白色を呈する。層15mm。下部に傾斜4°で径0.5mmの明赤灰色粘土を伴う。	24 25	D																
24	-24		花崗岩	明赤灰	硬	IV				27.93m: 傾斜15°で径5~10mm程度の灰白色シルト→粘土を挟む。境界は不明瞭である。28.39~30.57m: 不明瞭な割れ目が発達し、角礫状を呈する。	26 27	D																
25	-25		花崗岩	灰白	硬	IV	γ	2		30.54~31.88m: 著角礫の打打った割れ目に径10mm以下の灰白色砂質シルトを挟む。	28 29	D																
26	-26		花崗岩	灰白	硬	IV				33.00~34.00m間に傾斜70°程度で径1~7mm程度の褐色砂質シルトを挟む。	30 31	D																
27	-27		花崗岩	明赤灰	硬	IV	δ	3		35.11~36.17m: 割れ目沿いにマンガン汚染が多く認められる。	32 33	D																
28	-28		花崗岩	明赤灰	硬	IV				36.11~36.42m: 不明瞭な割れ目が発達し、砂是しり角礫状を呈する。	34 35	D																
29	-29		花崗岩	明赤灰	硬	IV				37.36~37.46m: 径50mm以下で褐色砂礫シルト状を呈する。上部に傾斜3°、下部69°。上部には径0.5mm程度の軟質な褐色シルトを伴う。	36 37	D																
30	-30		花崗岩	明赤灰	硬	IV	δ	3		38.32~38.74m: 不明瞭な割れ目が発達し、角礫状を呈する。38.69m以下は灰白色粘土が層状に分布している。原岩組織は残存する。やや硬質。	38 39	D																
31	-31		花崗岩	明赤灰	硬	IV				39.00~39.82m: 粘土・砂質角礫状部(H)。灰白色を呈し、灰白色粘土が層状に分布する。原岩組織は残存する。やや軟質。上部はコア部部で石明。下部52°で径1mmの軟質な淡黄色粘土を伴う。	40 41	D																
32	-32		花崗岩	明赤灰	硬	IV				39.67~39.83m: 砂是しり角礫状部(H)。割れ目が発達し、角礫状を呈する。原岩組織は残存する。やや軟質。下部9°。明赤灰色を呈する。	42 43	D																

第7.4.4.237図 (2) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-2'孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	柱状区分	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	風化	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	孔内水位 (N) 値	((N 値 ~ 深度) 図) 試験	原位試験 (孔内圧電)	室内試験日	掘進速度 (cm / 時)	掘進月	掘進日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水水量 (L / 分)	送水圧 (MPa)	排水水量 (L / 分)	排水圧 (MPa)								
41						赤灰	III	IV	割れ目なし	3	48.17~48.55m: 不規則な割れ目が散在し、角礫状を呈する。上部5cmは白色粘土を呈する。下層は凝結状である。 40.77~41.00m: 砂溜り角礫状を呈する。	3	400	100	0	0					6/15	150	6/15	87 / タンクメーキング				7											
42						にぶい黄褐色	IV	IV	δ	4	41.15~41.87m: 不規則な割れ目が散在し、角礫状を呈する。 41.87~42.16m: 白色粘土を呈する。 42.16~42.94m: 中~重角礫状目が見られ、砂溜り角礫状を呈する。 42.94~43.81m: 不規則な割れ目が散在し、角礫状を呈する。 43.81~44.15m: 砂溜り角礫状を呈する。	4	400	100	0	0					6/17	152	6/17						10										
43						にぶい黄褐色	IV	IV		3	42.94~43.81m: 不規則な割れ目が散在し、角礫状を呈する。	6	400	100	0	0																							
44						灰白	IV	IV		2	43.81~44.15m: 砂溜り角礫状を呈する。	9	400	100	0	0																							
45						灰白	IV	IV		3	44.15~44.53m: 不規則な割れ目が散在し、角礫状を呈する。	9	400	100	0	0																							
46						灰白	IV	IV		2	44.53~45.22m: 砂溜り角礫状及び細粒質砂を呈する。全体に白色粘土が層状にみられる。	9	400	100	0	0																							
47						にぶい黄褐色	IV	IV	δ	3	45.22~47.02m: 砂溜り角礫状及び細粒質砂を呈する。全体に白色粘土が層状にみられる。	9	400	100	0	0																							
48						にぶい黄褐色	IV	IV		6	47.02~48.76m: 砂溜り角礫状を呈する。	9	400	100	0	0																							
49						にぶい黄褐色	IV	IV		3	48.76~48.90m: 淡緑~灰白色を呈し、不規則な形状のシルト状部を伴う。やがて硬質。	9	400	100	0	0																							
50						淡黄	IV	IV		4	48.90~50.10m: 不規則な割れ目が散在し、角礫状を呈する。 マンガン汚染が顕著にみられる。	9	400	100	0	0																							
51						淡黄	IV	IV		4	50.10~50.26m: 砂溜り角礫状を呈する。 マンガン汚染が顕著にみられる。 50.26~50.28m: 凝結状。 50.28~50.34m: 凝結状及びマンガン汚染を呈する。 50.34~50.39m: 凝結状。 50.39~50.44m: 凝結状。 50.44~50.54m: 凝結状。 50.54~51.10m: 不規則な割れ目が散在し、角礫状を呈する。 51.10~51.94m: 凝結状。 51.94~53.94m: 凝結状。 53.94~54.03m: 凝結状。 54.03~55.00m: 凝結状。 55.00~55.00m: 凝結状。	9	400	100	0	0																							
52						淡黄	IV	IV		4	50.10~50.26m: 砂溜り角礫状を呈する。 マンガン汚染が顕著にみられる。 50.26~50.28m: 凝結状。 50.28~50.34m: 凝結状及びマンガン汚染を呈する。 50.34~50.39m: 凝結状。 50.39~50.44m: 凝結状。 50.44~50.54m: 凝結状。 50.54~51.10m: 不規則な割れ目が散在し、角礫状を呈する。 51.10~51.94m: 凝結状。 51.94~53.94m: 凝結状。 53.94~54.03m: 凝結状。 54.03~55.00m: 凝結状。 55.00~55.00m: 凝結状。	9	400	100	0	0																							
53						淡黄	IV	IV		3	51.10~51.94m: 凝結状。 51.94~53.94m: 凝結状。 53.94~54.03m: 凝結状。 54.03~55.00m: 凝結状。 55.00~55.00m: 凝結状。	9	400	100	0	0																							
54						細粒質	IV	IV	γ	2	53.94~54.03m: 凝結状。 54.03~55.00m: 凝結状。 55.00~55.00m: 凝結状。	9	400	100	0	0																							
		31.95	55.00																																				

第7.4.4.237図 (3) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-2' 孔)



第7.4.4.237図(4) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-2' 孔)

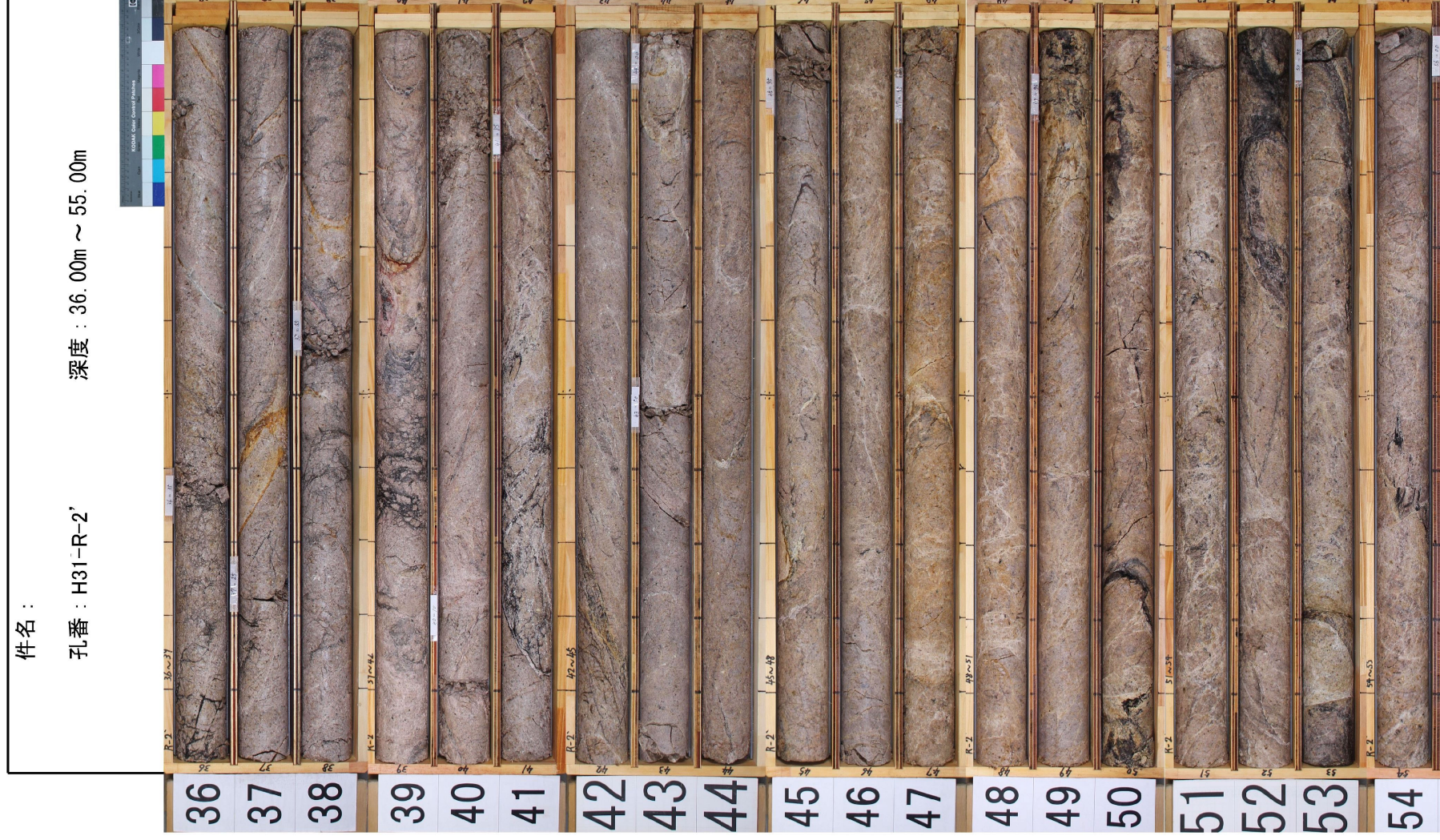
件名 :

孔番 : H31-R-2'

深度 : 18.00m ~ 36.00m



第7.4.4.237図 (5) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-2' 孔)



第7.4.4.237図 (6) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-2' 孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	柱状区分	岩種区分	色調	硬軟	ア形状	割れ目の状態	風変質	記	コア採取率 最大コア長 R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	() 値	() 標準貫入 (N 値 ~ 深度) 図	試験 () 図	原位置試験 (孔内全軸)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	掘進度 (m / 時)	孔径 / 孔壁保護	コアチップ 写真	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)		
11	-1.07	10.62		埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	10.62~27.35m: アブライトである。径2~3mmの石英、灰石、黒雲母の堆積物で構成され、全所に風化を呈し、褐色顔料を伴う。	4	埋土							2/6	860										
12				砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	12.00~12.12m: マンガン汚染が顕著に現れる。 12.37~12.49m: 礫材目扱いに風化し、角礫状を呈する。	10	砂岩							2/8	70										
13				砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	13.81~13.85m: 砂泥じり角礫状を呈し、灰白色粘土を挟む。 14.72~14.38m: 砂泥じり角礫状を呈する。	12	砂岩								2/9	59									
14				砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	15.25~15.59m: 角礫状~砂質粘板礫。シルトを挟む。 15.72~16.00m: 角礫状~砂泥じり角礫状を呈する。	12	砂岩																		
15				砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	17.00~17.17m: 不均質な礫目目が混在し、砂泥じり角礫状を呈する。	12	砂岩																		
16				砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	18.52~18.55m: 礫径15、幅25mm程度で角礫状を呈する。上端、下端には不連続な層~灰白粘状土を挟む。	10	砂岩																		
17				砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	19.34~19.47m: 不均質な形状で礫目扱いに取付モルタルが分布する。	10	砂岩																		
18				砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩																					
19				砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩	砂岩																					

第7.4.4.238図 (2) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-1孔)

R-1 (5 / 15)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアの形状	風変	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定日	標準貫入 (N値~深度) 図	原位試験 (室内水圧載荷)	室内試験日	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップノット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
—41			アライト	明稜砂	Eg	δ	3		100	D				2/27	29				30									
—42				明稜砂	Eg	ε	4	●42.24~42.31m: 凝結部 灰白色の砂質粘土状土 (6~2)。上層部の砂質粘土状土は、 一部に粘土質の砂質土を 含む。粗粒の砂質土は、 粗粒 (幅10~25mm程度) 42.31~42.68m: 角礫状~粘土質砂 状を呈する。 ●42.68~42.80m: 凝結部 粘土質凝結状~硬質しり砂状 (中)。 上部10%で凝結部の砂質土を 含む。粗粒の砂質土は、 一部に粘土質の砂質土を 含む。粗粒の砂質土は、 粗粒 (幅10~25mm程度) 42.80~44.07m: 粘土・砂質しり角 礫状を呈し、一部で灰白色粘土が 目状に分布する。 44.30~45.00m: 粘土・砂質しり角 礫状を呈し、一部、砂質粘土状を呈 する。上部は褐色汚染が顕著である。 ●45.37~45.47m: 粘土・硬質しり砂 状を呈する。 ●46.39~46.47m: 灰白色粘土が 目状に分布し、粘土質しり砂 質角礫状を呈する。 46.59~47.63m: 主に粘土質しり砂 質角礫状を呈する。所々、灰白色粘 土が層目状に分布するが、原岩組織 は残る。 48.41~48.47m: 上部50%、下部20% で砂質凝結状を呈し、間に層3~8 の砂質粘土を挟み、粗粒の砂質土を 含む。粗粒の砂質土は、 48.77~48.92m: 凝結し、粘土・砂 質角礫状を呈する。 48.92~49.92m: 硬質で、薄片状コ アからなる。	100	D			2/28	42				2/29	40	異水4	0.1			30				
—43				明稜砂	Eg	δ	3		100	D				3/1	37				60									
—44				明稜砂	Eg	ε	4		100	D				3/2	34				60									
—45				明稜砂	Eg	ε	4		100	D				3/4	30				60									
—46				明稜砂	Eg	γ	3		100	D				3/4	39				60									
—47				明稜砂	Eg	δ	3		100	D				3/5	30				60									
—48				明稜砂	Eg	γ	3		100	D				3/5	37				60									
—49				明稜砂	Eg	δ	3		100	D				3/6	47				60									
—49				明稜砂	Eg	ε	4		100	D				3/6	79				60									
—49				明稜砂	Eg	δ	3		100	D				3/6	83				60									

第7.4.4.238図 (5) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-1孔)

標尺 (m)	横高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	風化	記	コア採取区	岩級	孔内水位 (m) / 測定日	() 値	() 試験	原位置試験 (孔内位置)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔底保護	コアチップ/ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水水量 (L/分)	排水水量 (L/分)	送水圧 (MPa)	
131		アブライト	緑灰	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	2 3	130.00~132.40m: アブライトである。径2~10mmの石英、長石、黒雲母の塊を50%程度含む。傾斜55°程度の割れ目とほぼ垂直な割れ目が交差し、細片状コアからなる。 130.41~130.47m: 傾斜40mm程度で砂状を呈する。 131.02~131.15m: 傾斜20°程度の割れ目が交差し、やや変質する。 131.65~132.20m: 径10~40mmのかり長石の巨晶が存在する。	0 50 100 100% cm R Q D L [%]	cl' cl'							4.23	90			28.3	0.2	3		
132	34.40 32.46		明緑灰	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	2	132.31~132.57m: 中角度割れ目に出る。傾斜55°程度の交差する。径2~10mmの石英、長石、黒雲母の塊を10~20%程度含む。 133.20~134.19m: 傾斜60°程度の割れ目に傾斜30mm程度の方解石脈を挟むことが多い。		cl'						6.6	80			31.2	0.1	8			
133			赤灰	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	3	134.63m: 傾斜53°で幅6mmの方解石脈を挟む。傾斜54°、55°、56°、57°、58°、59°、60°、61°、62°、63°、64°、65°、66°、67°、68°、69°、70°、71°、72°、73°、74°、75°、76°、77°、78°、79°、80°、81°、82°、83°、84°、85°、86°、87°、88°、89°、90°程度の割れ目が交差し、角状を呈する。 135.02~135.21m: 中角度割れ目が交差し、割れ目沿いにマンガンが濃集する。 傾斜56°で幅2~5mmの方解石脈を挟む。		cl'															
134			緑灰	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	3	136.60~136.70m: 不明な割れ目が発達し、割れ目沿いにマンガン汚染が見られる。		cl'															
135			赤灰	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	2	137.53~137.63m: 割れ目沿いにマンガン汚染が見られる。		cl'															
136			赤灰	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	2	138.67m: 傾斜54°で幅2mm以下の方解石脈を挟む。傾斜55°、56°、57°、58°、59°、60°、61°、62°、63°、64°、65°、66°、67°、68°、69°、70°、71°、72°、73°、74°、75°、76°、77°、78°、79°、80°、81°、82°、83°、84°、85°、86°、87°、88°、89°、90°程度の割れ目が交差し、角状を呈する。 139.31m: 傾斜51°の割れ目面に黄鉄鉱が多く露出する。		cl'															
137				Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	3			cl'															
138				Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	2			cl'															
139				Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	Bg Vg Bg Vg	2			cl'															

第7.4.4.238図(14) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-1孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変	記	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R G D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定旨	(N) 値 (N 値 ~ 深度) 図 (標準貫入) 試験 原位置試験 (孔内位置)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水水量 (L / 分)	排水水量 (L / 分)
-141					赤灰	Bg	III E II E IV E				20 (37) (40%) 27 (52) (54%)				6/8 43		6/8		68.2	0.2	標準	8	
-142				本通凝灰	赤灰	Bg	III E II E IV E	bg β 2		141.52m: 凝結50° の割れ目面に黄鉄鉱が多く晶出する。	21 (36) (40%) 16 (26) (28%)				6/10 56		6/10		61.0	120	標準	8	
-143					赤灰	Bg	III E II E IV E			144.74m: 凝結53° の割れ目面に黄鉄鉱が多く晶出する。割れ目周辺は概20mm以下で浅黄褐色に染みする。	27 (37) (40%)				6/11 43		6/11		68.0	0.1	標準	8	
-144							III E II E IV E																
		-04.01 [45.00]					III E II E IV E																

第7.4.4.238図 (15) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-1孔)

件名：

孔番：H31-R-1

深度：0.00m ~ 18.00m



第7.4.4.238図(16) ボーリング調査結果 (K断層の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-1孔)



第7.4.4.238図 (17) ボーリング調査結果 (K断面の南方から2号炉原子炉建屋間) コア柱状図 (H31-R-1孔)